

地下水保全条例を 議員提案(7人共同)

3月議会で「地下水保全条例」を議員提案(7人の共同)しました。

この条例の目的は、地下水を市民共通の財産である「公水」と位置づけ、市、事業者、市民それぞれが責任をもって地下水の保全と涵養(かんよう)を行うこと、地表の水(降水や河川水)が帯水層に浸透し、地下水となることを指す。)に努めることを義務づけることにあります。全国ではすでに400を越える自治体が制定しており(国土交通省調べ)府内では、城陽市や長岡京市など8市町が条例や要綱を定めています。

23年 24年
6月 ~ 3月



「水・地域・絆」を大切に
するまちづくり

木村正孝市議

議会報告



初当選から約1年、「地下水源の保全と活用」をテーマに、本会議での一般質問や建設水道常任委員会での審議を通じて、生命の水の大切さを訴え、災害に強いまちづくりのための政策提案を続けてきました。その結果、6月議会で、自己水(地下水)35%確保の再確認や神明・奥広野浄水場の新設立替えを、10月の建設水道常任委員会では、水質悪化を招いた責任をふまえ、開浄水場のメンテナンスをいっそうしっかりと行う確認を、3月議会で災害時の備蓄用飲料水として5浄水場で5千トン確保するとの水道部方針などを確認しました。

〈24年3月議会〉

一般質問と答弁

貯水量は1万5千立方メートル確保

木村正孝議員(社会議員団)は災害時の飲料水の確保状況を質問した。

杉村亮一水道部長は「貯水量は約1万5000立方メートルを確保予定とし、内訳は「5浄水場で5000立方メートル、配水池8カ所で1万立方メートル確保できる」と説明。また「10年度に500立方メートルのペットボトルを1万本作成し、うち5000本を非常用飲料水として備蓄している。今年度も1万本作成しており、今後も増やしていきたい」と示した。

浄水施設の耐震化を問う質問で、杉村部長は「自己水源の65%を占める宇治浄水場を診

浄水場名	総有効容量	震災時貯留量予測量
宇治浄水場	889	610
西小倉浄水場	5,687	3,900
神明浄水場	524	350
開浄水場	381	260
奥広野浄水場	58	40
計	7,539	5,160

断したところ。まず宇治浄水場を優先的に耐震化する」とし、ほか避難所までの道に太陽光発電の誘導灯を設置するよう求めた。安田修治建設部長は「夜間避難時、安全誘導できない」と答えた。

〈23年6月議会〉

一般質問

自己水は35%確保を再確認
「水道ビジョン中長期整備計画にある自己水35%、府営水65%という方針に変わりはない。」(桑田水道事業管理者)

神明・奥広野浄水場は統廃合して新設する(桑田管理者)

平成18年の水道事業懇談会で水道部は、神明・奥広野・開浄水場・槇島の4浄水場は休廃止も選択肢との考えを述べていました。このため一般質問したところ「神明及び奥広野浄水場は、施設の老朽化が進行しており更新が必要。両浄水場を統廃合し、新たな浄水場の建設を検討する」との答弁をいただきました。

〈23年10月 建設水道常任委員会〉

開浄水場のメンテナンス
これまで以上にしっかりと行う(水道部長)

給水停止予告から一転、地元自治会に謝罪。

「開浄水場のトリクロロエチレン濃度が上昇し、水道水質基準の上限(0.01mg/リットル)に達しており、これ以上上昇すると給水停止、府営水に切り替える」と議会建設水道委員会や給水地域の地元自治会(開自治連合会、開ヶ丘自治会、一里丘住宅地自治会)に23年9月15日に連絡があり、地元では直ちに役員会・第二次水道問題対策委員会が開かれた。その結果、独自に水質検査を行うことを決定し準備にはいった。

水道部はその後9月20日に「浄水場の点検をした結果、排気ダクト内部の閉塞版が外れていたことを発見し取り付けた結果、水質は一気に改善(0.06mg/リットル)した」と、地元自治会や議会建水委員会に謝罪。今後は、日常点検を1月に1回行うこと、水質検査回数を増やすなどの対応がしめされた。

ゲリラ豪雨対策1調査実施

23年6月、9月議会で対策を問う

ここ数年、ゲリラ豪雨の影響で側溝から水が溢れ出し、公園横の道路は川に。家の前の植木鉢はぶかぶか。自家用車は水につかり大事に。さらに住宅浸水などが起こっており、地元自治会からは緊急要望が出されていました。23年6月議会、9月議会でこの問題をとり上げ、市に対応策を求めた結果、小倉駅前とあわせて1100万円の調査費が補正予算で決定。24年2月20日から調査が始まっています。



ことば

〈一般質問〉

議員が定例議会において、市政全般について市長や部長に質問することです。その内容は、市の政策や仕事の仕方を見直し、また新たな政策提案を行うこと。

〈太陽光発電型誘導灯〉

避難所や市内の拠点に設置することで、災害時、停電時に有効な設備。特に災害時は、停電で真っ暗になった場合の実用性に加え、心の灯火になる優れたもの。1基30万円程度。

洛南タイムス

3/1掲載